

◆原子力災害について

原子力災害とは、原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。愛知県周辺には原子力施設が存在しています。放射性物質に関する基本的な知識と正しい対処法を知っておきましょう。

○正確な情報を入手しましょう

原子力施設で事故等が発生した場合、自治体などはテレビ・ラジオなどの報道機関を通して住民に必要な情報を速やかに知らせます。デマに惑わされないようにしましょう。

○防護対策が必要となります

防護対策とは、放射線や放射性物質が大量に放出されたときに、周辺住民などの被ばくをできるだけ低減するために講じられる措置です。

住民が受けると予測される線量が一定の指標を超えるような場合に、数時間以内に「屋内退避」や「避難」といった指示や、1週間以内に「一時移転」といった指示が出ます。

屋内退避の場合

○屋内退避について

屋内退避は、比較的簡単にとることができる対策です。放射性物質の吸引や、放射線を避け、被ばくを減らすことができます。屋内退避は、市区町村などから避難指示が出されるまで、被ばくのリスクを減らしつつ待機する場合があります。特に病院や介護施設では、避難するより屋内退避を優先することが必要とされることがあります。その場合、遮へい効果や気密性が比較的高いコンクリートの建物への退避が有効です。

○屋内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めて、次の対策を取るようにしましょう。

- 換気扇やエアコンは止める
- ドアや窓を全部閉める
- 屋外から帰ってきた人は、手や顔を洗い、衣服を着替える
- 着替えた衣服はビニール袋に保管し、他の衣服と区別しておく
- 電話による問い合わせなどは控える
- テレビやラジオ、行政無線などで正確な情報収集を行う
- 屋内の食品にはふたをしたり、ラップをかける
- ペットは屋内に入れる

◆国民保護情報とは

国民保護情報とは、わが国に対する外部からの武力攻撃、あるいは大規模テロなどが迫っているとき、または発生したときに、関係する地域の方に注意や避難を呼びかけるための情報です。政府が「Jアラート」で情報を発信し市町村の防災行政無線やテレビ・ラジオ・メールなどを通じて情報を伝達し住民の生命、身体及び財産を守ります。

○通知される情報の種類の例

- 弾道ミサイル情報
- 航空機攻撃情報
- ゲリラ・特殊部隊攻撃情報
- 大規模テロ情報
- その他緊急に伝達することが必要な国民保護に関する情報

プロテ

風水害

地震

その他の災害

家庭対策

地域対策

大雪や火山について

◆大雪について

愛知県内は豪雪地帯ではありませんが、大雪となることがあります。旅行先等で被災することもあります。大雪の際に注意すべきことを知っておきましょう。

○大雪の警報・注意報

- 暴風雪警報：雪を伴い、平均風速が 20m/s 以上になると予想される場合
- 風雪注意報：雪を伴い、平均風速が 13m/s 以上になると予想される場合
- 大雪警報：12 時間降雪の深さが 10 cm 以上になると予想される場合
- 大雪注意報：12 時間降雪の深さが 5 cm 以上になると予想される場合

○大雪が降った時には…

大雪になったときには、以下のような影響が予想されます。

- 移動が困難になる … 地面が凍って滑りやすくなったり、交通機関のマヒにより帰宅困難になったりすることもあります。
- 物資不足や孤立が発生する … 大雪による道路の通行止めなどで地域が孤立したり、物資が届かなくなるおそれもあります。
- ライフラインが使用できなくなる … 大雪による設備の破損などでライフラインが断たれることがあります。(水道管の破裂など)

○大雪の対策

大雪が降ると予想される場合には、以下のような対策を事前に取りるようにしましょう。

- 物資不足に備え、必要な備蓄品を事前に用意しておく。
- 車で外出する予定がある場合は、スタッドレスタイヤやタイヤチェーンなど準備しておく。
- 防寒着・防寒具を用意しておく。
- やむを得ず外出するときは、交通機関の乱れや渋滞等を予測し、早めに行動するなど対策をとるようにする。

◆火山について

愛知県内に火山はありませんが、周辺には活火山もたくさんあります。旅行先等で被災することもあります。火山について注意すべき点を知っておきましょう。

○気象庁・自治体の発表する情報

- 噴火速報 … 噴火発生時は、最初の噴火が発生した数分以内に噴火速報が発表されます。
- 噴火警戒レベル … 噴火警戒レベルは、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として火山噴火予知連絡会によって選定された50火山のうち、48火山(令和元年7月現在)で運用されています。噴火警戒レベルの判定基準は、それぞれの火山における想定される火山活動に基づいて定められており、内容はそれぞれ異なっています。

○噴火が起きたときの避難行動

近くで噴火が起きたら、まずは近くにあるコンクリート製などの頑丈な建物の中に入ることが最も大切です。登山中の場合は、山小屋に避難しましょう。近くに山小屋がない場合は、岩陰などに身を隠し、荷物で頭部を守り、マスクを着用し、噴石やガスから身を守るようにしましょう。事前に火山ハザードマップなどで情報を収集しよう。

火災に対する備え

火災のほとんどは、ちょっとした注意で防ぐことができます。火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、注意するようにしましょう。

◆火災を防ぐためのチェックポイント

①放火対策をする

古新聞・古雑誌や燃えるゴミなどは人目の付きやすいところに置いておかない。物置や車庫などの戸締まりをしておく。

②コンロから離れない

コンロのまわりに燃えやすいものを置かない。火がついているときにはコンロから離れないようにする。離れるときは必ず火を消す。

③寝たばこ、放置は厳禁

火がついたたばこは放置しない。喫煙するときには深い灰皿を使い、吸い殻を捨てるときは必ず水につけ、そのまま捨てたりしない。

④子どもの火遊びに注意する

子どもに火の安全な扱い方や怖さを教えておく。子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。

⑤ストーブまわりの整理

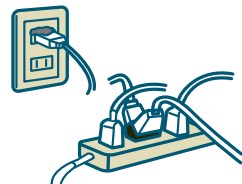
衣類や布団など、ストーブのまわりに燃えやすいものを置かない。また、新聞や雑誌なども置かない。

⑥タコ足配線はしない

複数のコードをまとめたり、タコ足配線をしたりしない。コードの上にものを載せるのも危険。コンセントまわりは定期的に掃除し、埃への引火を防ぐ。

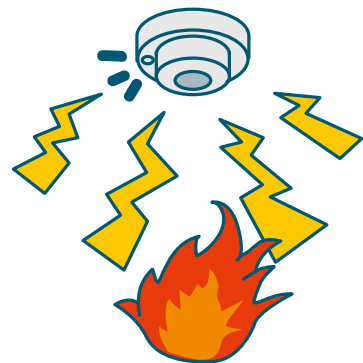
⑦太陽光を侮らない

太陽光が凹面鏡やルーペなどにより反射、または屈折して光が1点に集中し、その先に可燃物があると火災に至る場合があります。窓際や太陽光が差し込む範囲に物を置く場合は十分に注意しましょう。



◆住宅用火災警報器等を設置しましょう

消防法が改正され、すべての戸建住宅やアパート・マンションなどに火災警報器等の設置が義務付けられました。住宅用火災警報器は煙や熱を感知すると、警報音で知らせます。住宅用火災警報器の寿命は10年程度です。電池切れの合図が出たら、警報器ごと交換をするようにしましょう。



もし出火したときには

◆火災の初期対応三原則

火災が発生した場合、まず119番通報し、その後周辺に火事であることを知らせる。また「初期消火」にあたり、対応が難しい場合は「避難」することが原則です。

- ①**大声で知らせる!**
 - 大きな声で「火事だー!」と叫び、周辺に知らせる。声が出せない場合は、非常ベルを鳴らしたり、やかんや鍋など音が出るものを叩くなどして異常を知らせる。
 - どんなに小さな火事でも必ず119番に通報する。
- ②**早く消火する!**
 - 火がまだ横に広がっているうちは消火が可能。
 - 消火器や水だけでなく、座布団で火を叩く、濡れた毛布で火を覆うなど手近なものを最大限利用する。
- ③**早く逃げる!**
 - 天井まで火が燃え広がったら消火は困難。諦めてすぐに避難する。
 - 燃えている部屋の窓やドアを閉め、空気を遮断してから避難する。

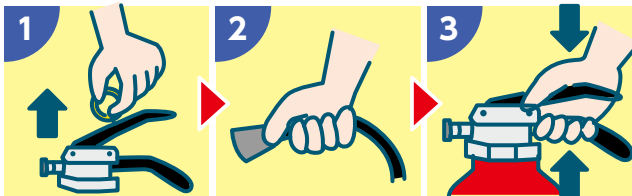


◆消火器の使い方を知っておきましょう

消火器を持っていても、使い方を理解していないと効果的な消火につながりません。地域の防災訓練に積極的に参加して、消火器の使用方法を体験しましょう。

○消火器の使い方

- ①安全ピンを指にかけ、上に引き抜く。
- ②ホースをはずして火元に向ける。
- ③消火レバーを強く握って噴射する。



自宅や地区の消火器がどこにあるか確認しよう。

○消火器の構え方

- ①火の風上にまわり、風上から構える。
- ②やや腰を落として、低く構える。
- ③煙や火を避けて、炎には真正面から向き合わない。
- ④炎を狙うのではなく、火元を掃くように左右に振って消火する。



◆火元別の消火方法

■コンロ(天ぷら油火災)

- 消火器は近くで噴射すると油が跳ねてやけどするおそれがあるため、安全かつ有効な位置から鍋を覆うように噴射する。
- 消火器がない場合は、鍋にぴったり合うフタを使用し、鍋の手前からすべらせるようにかぶせる。フタをしたら油が冷めるまでそのままにする。
※絶対に水で消火しない! 炎が急激に拡大します。

■石油ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、濡らしたシーツまたは毛布をストーブの上から覆い空気を遮断する。さらにその上から水をかける。

■電気火災

- 感電するおそれがあるため、電気を遮断した状態で消火器または水で消火する。

■衣類

- 着衣に火がついた場合は、燃えている部分を地面に押し付けるように転がる。周りに水があれば水をかぶる。

■カーテン、ふすま、障子

- カーテンに燃え移ると天井に延焼するおそれがあるため、カーテンを力まかせに引きちぎり水または消火器で消火する。
- ふすまや障子などは蹴倒して水または消火器で消火する。